

年報・紀要

令和5年度

半田市立博物館

目 次

年 報

1. 施設概要	2
2. 組織図	3
3. 半田市博物館協議会	
(1) 協議会委員	4
(2) 協議会日程	4
4. 展示活動	
(1) 企画展示	5
(2) その他の展示	15
(3) 山車展示	15
5. 教育普及活動	
(1) 博物館講座・講演会等	16
(2) 視察及び見学	17
(3) 半田市内小学校3年生の見学學習	18
6. 資料の収集・整理・保存	
(1) 資料寄贈	18
(2) 収蔵資料点数	19
7. 半田市立博物館友の会活動	20
8. 文化財保護事業	
(1) 文化財専門委員会	20
(2) 文化財の保護	20
(3) 保存修理・保存施設整備補助事業	23
(4) 旧中埜家住宅保存管理事業・整備事業	24
9. 来館者数の推移	25

1. 施設概要

【所在地】 半田市桐ヶ丘4-209-1
【開館】 昭和59年10月1日
【敷地面積】 10,318.40m² 【建築面積】 3,425.27m²
【延床面積】 5,151.48m² 【博物館】 1,881.50m²

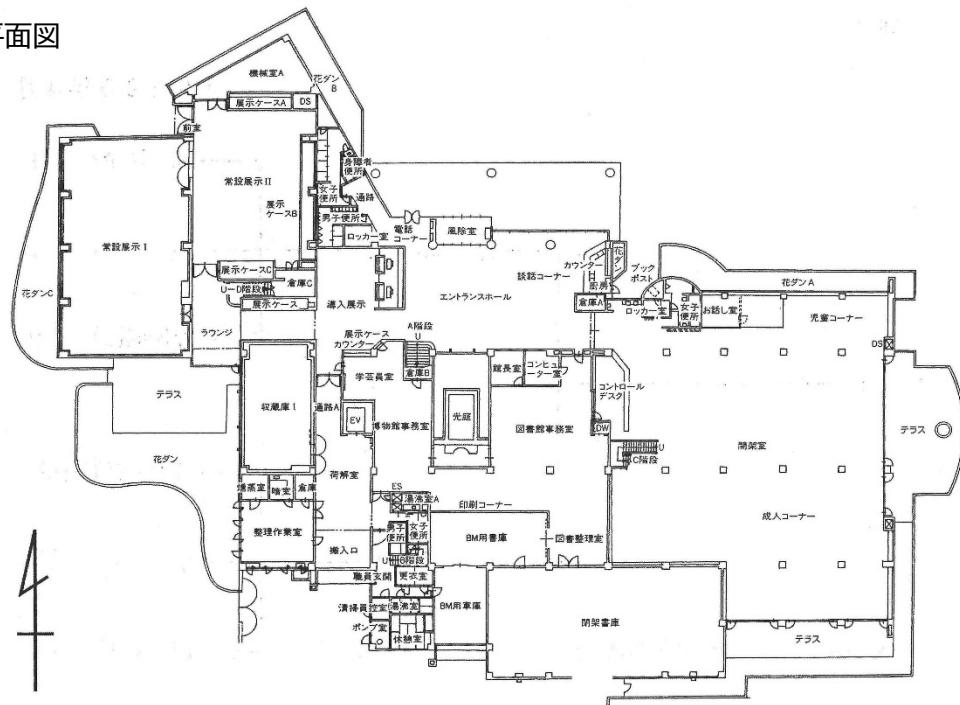
〔構造〕 鉄筋コンクリート造 2階建 塔屋1階

【館内施設】(図書館との共有部分を含む)

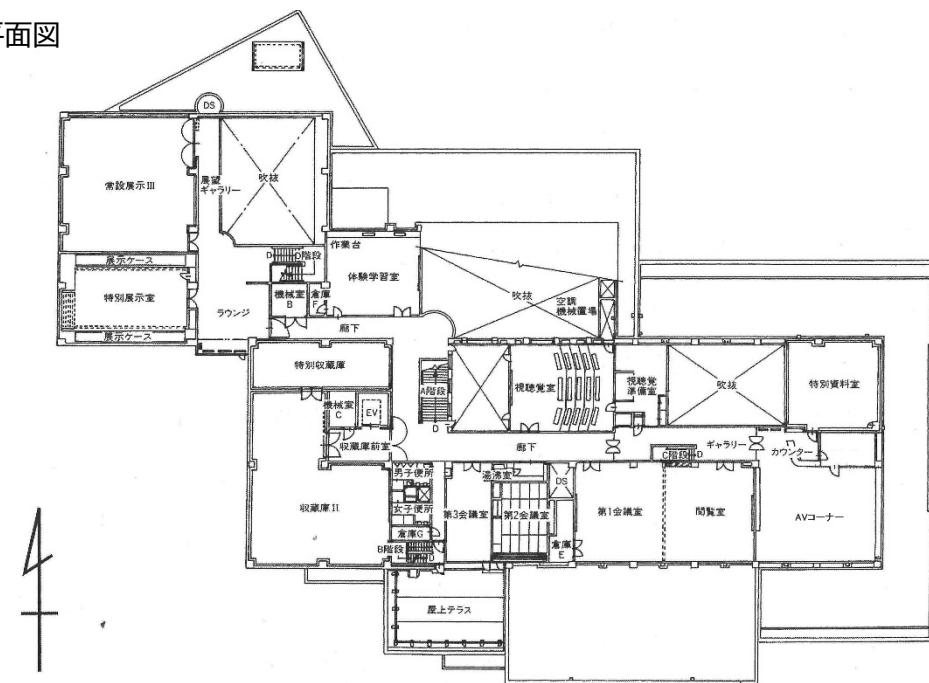
1階 常設展示室Ⅰ、常設展示室Ⅱ、収蔵庫Ⅰ、燻蒸室、整理作業室、事務室など

2階 常設展示室Ⅲ、特別展示室、体験学習室、特別収蔵庫、収蔵庫Ⅱ、視聴覚室など

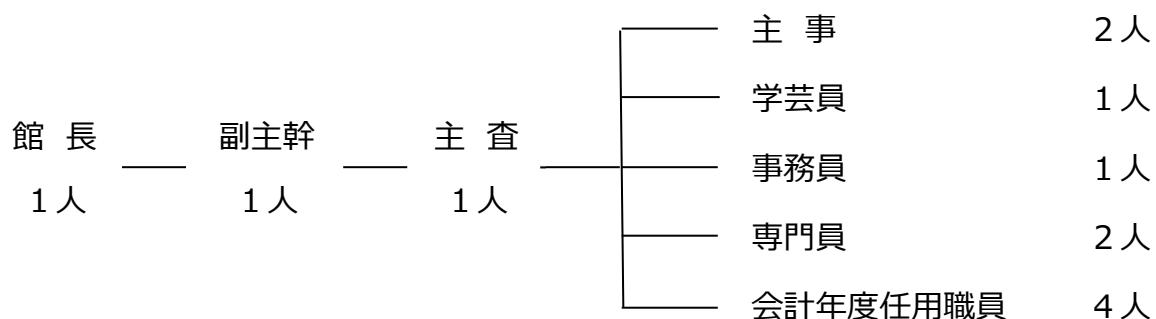
1 階平面図



2階平面図



2. 組織図（令和5年4月1日現在）



職種別内訳

職名 補職名	主事	学芸員	事務員	専門員	会計年度 任用職員	合計
課（館）長	1人					1人
副主幹	1人					1人
主査		1人				1人
主事	2人					2人
事務員			1人			1人
学芸員		1人				1人
専門員				2人		2人
会計年度 任用職員					一般事務 3人 学芸員 1人	4人
合計	4人	2人	1人	2人	4人	13人

3. 半田市博物館協議会

半田市博物館協議会は、博物館法第20条の規定により設置され、博物館の運営に関する館長の諮問に応じるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

半田市立博物館条例第11条の規定に基づき、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験者の中から教育委員会が任命する。(定員10人、任期2年)

(1) 協議会委員(令和5年9月1日)

氏名	分野	摘要
井手 満技	社会教育関係者	博物館友の会会長
佐野 景子	学識経験者	桐塑人形作家
柴垣 勇夫	学識経験者	元愛知淑徳大学教授
立松 彰	学識経験者	東海市立平洲記念館・郷土資料館前館長
藤堂 正喜	学校教育関係者	半田市小中学校社会科研究部長
新美 玲子	家庭教育の向上に資する活動を行う者	伝統文化お茶お花子ども教室主催
本美 信一	社会教育関係者	半田市文化協会理事
松見 直美	観光振興関係者	知多半島観光圏協議会事業推進事務所前所長

(2) 協議会日程

※令和5年度は開催なし

4. 展示活動

(1) 企画展示

「第38回知多工芸展」

期 間：令和5年4月22日（土）～6月4日（日）

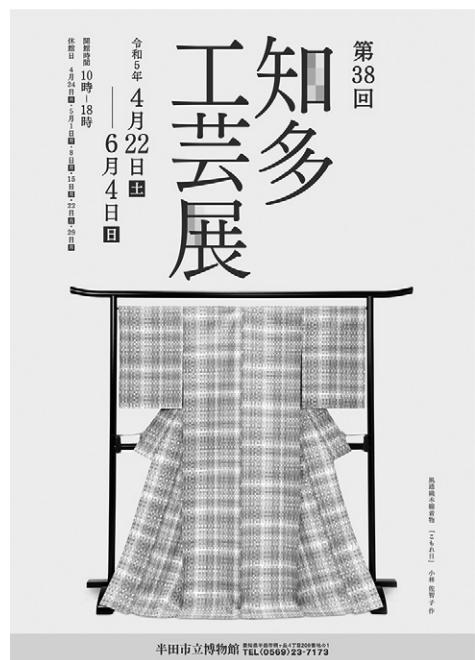
会 場：特別展示室（2階）、展示コーナー（1階）

入場者数：8,103人

展示内容：知多半島の工芸作家（陶芸・人形・染織）

23名の作品を展示了。

展示点数：26点



出品作品一覧

部 門	氏 名	作 品 名
陶 芸	伊藤 雄志	練込壺
	片岡 誠	自然釉壺
	加藤 真美	フロスト釉花入
	鯉江 廣	あけぼの彩角皿
	小西 洋平	真焼茶注三種
	柴田 正明	雲の階段
	清水 北條	朱泥藻掛茶銚／白泥南蛮茶注
	杉江 幸治	自然釉化粧花器
	竹内 孝一郎	灰釉花器
	谷川 省三	鉄釉彩鉢
	谷川 仁	抜文様板集結器
	都築 青峰	土瓶 急須
	富本 敏裕	WAVE
	水上 勝夫	灰被り窯変 叩き皿
	水野 真澄	躍動
	村越 風月	茶注三趣
	山田 孝藏	黒灰釉茶盃／石ハゼ粉吹茶盃／草文粉吹茶盃
人 形	四代 山田 常山	常滑急須
	山田 想	青急須
	佐野 景子	犬笛
染 織	小林 佐智子	風通織木綿着物「こもれ日」
	杉浦 雅子	紬織着物『花信風』
染 色	二宮 祐子	華 2022

新美南吉生誕 110 年記念展 「童話に見る昔の道具」

期 間：令和5年6月24日(土)～9月3日(日)

会 場：特別展示室（2階）、展示コーナー（1階）

入場者数：19,835 人

展示内容：童話に出てくる道具を中心に展示し、用途や
当時の暮らしの様子などを紹介した。

展示点数：33 点



展示資料一覧

		名称	大きさ
1	明かり	行燈	半田市立博物館蔵
2		提灯箱	半田市立博物館蔵
3		弓張提灯	半田市立博物館蔵
4		小田原提灯	半田市立博物館蔵
5		吊りランプ	新美南吉記念館蔵
6		手提げランプ	半田市立博物館蔵
7		台ランプ	新美南吉記念館蔵
8		火打ち	半田市立博物館蔵
9	暮らしの道具	飯櫃	半田市立博物館蔵
10		箱膳	半田市立博物館蔵
11		釜	半田市立博物館蔵
12		錠前	半田市立博物館蔵
13		米櫃	半田市立博物館蔵
14		杓	半田市立博物館蔵
15		ふご	半田市立博物館蔵
16		柱時計	半田市立博物館蔵
17		火鉢	半田市立博物館蔵
18		銭箱	半田市立博物館蔵
19		井戸滑車	半田市立博物館蔵
20		釣瓶	半田市立博物館蔵
21		コマ	半田市立博物館蔵
22		幻灯機	半田市立博物館蔵
23	仕事道具	ふいご	半田市立博物館蔵
24		せんべい焼	半田市立博物館蔵
25		ミシン	半田市立博物館蔵
26		空気ポンプ	新美南吉記念館蔵
27		胡弓	新美南吉記念館蔵
28		扇子	新美南吉記念館蔵
29		鼓	新美南吉記念館蔵
30		鍬	新美南吉記念館蔵
31		糸車	半田市立博物館蔵
32		魚籠	新美南吉記念館蔵
33		酒樽	半田市立博物館蔵

企画展「歴史と伝統 半田の山車祭り」

期 間：令和5年9月23日(土)～11月5日(日)

会 場：特別展示室（2階）、展示コーナー（1階）

入場者数：11,633人

展示内容：市指定文化財「乙川八幡社祭礼絵図」などの貴重な資料を展示したほか、博物館で収蔵している祭礼文書や法被、彫常の彫刻作品、博物館に寄託されている山車関係資料等を展示了。

展示点数：170点



展示資料一覧

1. 古文書資料(No.8~30は半田市立博物館蔵)

No.	名称	点数	備考(年代、所蔵、分類)
1	知多郡乙川村北組若者定序	1	宝暦11年(1761)／半田市立博物館蔵
2	打揃道順之儀	1	年代不明／乙川向山区蔵
3	向山若連中掟寫	1	明暦元年(1655)／乙川向山区蔵
4	神輿渡御引渡之図	1	宝暦5年(1755)／乙川向山区蔵
5	乙川八幡社祭礼絵図	1	宝暦5年(1755)／乙川八幡社蔵
6	山車永代記	1	大正6年(1917)／岩滑新田平井組蔵
7	平井組永代記	1	嘉永元年(1848)／岩滑新田平井組蔵
8	定 年々神諫道之事	1	嘉永4年(1851) 樺原伊三家文書
9	定 天王御祭礼郷三組若イ者取極	1	天保9年(1838) 乙川文書追加II
10	神事二関スル事件并道具器械類等之義ニ付取極メ書	1	明治12年(1879) 乙川文書IV
11	荒古字議事録	1	明治26年(1893) 半田荒古文書
12	祭典ニ仕中老若者衆申協議ノ確定	1	明治31年(1898) 向山文書
13	請書写	1	明治40年(1907) 向山文書
14	南組議事録	1	大正8年(1919) 下半田南組文書
15	掌祭方連盟簿	1	慶應4年(1868) 乙川文書追加IV
16	村社祭典并神官給与徵収簿	1	明治23年(1890) 乙川文書追加IV
17	神事祭禮帳	1	明治15年(1882) 下半田南組文書
18	例祭費集金帳	1	明治42年(1909) 下半田南組文書
19	山車新調費徵収台帳	1	明治後期 下半田南組文書
20	平地新田ニテ亀崎村ノ者怪我人出来ニ付済口證文	1	天保8年(1837) 乙川文書追加IV
21	差出シ申請書之事	1	天保12年(1841) 岩滑文書
22	神社祭礼届	1	年代不明 乙川文書追加IV
23	願	1	明治30年(1897) 乙川文書追加IV
24	祭礼ニ付駆馬素人獅子舞奉納願	1	明治36年(1903) 乙川文書追加IV
25	祭礼山車通行ニ付御願	1	年代不明 乙川文書追加IV
26	村社上棟式并祭典記御宮雜費記	1	明治13年(1880) 乙川文書追加IV
27	村社祭典費協議費清算簿	1	明治28年(1895) 乙川文書追加IV
28	中小獅子本家別覚帳	1	明治33年(1900) 向山文書
29	山車新調設計書	1	明治40年(1907) 下半田南組文書
30	山車彫物仕用帳写	1	文政12年(1829) 彫常関係資料

2. 彫常彫刻作品(すべて半田市立博物館蔵)

No.	名称	点数	備考(作者)
1~5	栗、ピーマン、袋に鼠、俵鼠、鳩	1	二代彫常
6~7	観音像	1	初代彫常
8	観音像	1	二代彫常
9	蓮如意	1	初代彫常
10	兎	1	三代彫常
11~12	犬遊び、紅葉に鹿	1	彫常(詳細不明)
13	ひよこ	1	二代彫常
14~15	馬、牛	1	初代彫常
16~19	口バ、獅子、龍、力神	1	彫常(詳細不明)

3. その他(はんだ山車まつり関係、山車組所蔵資料、祭礼法被、写真パネルなど)

No.	名称	点数	備考(作者、年代、所蔵)
1	歴代はんだ山車まつり公式法被	9	個人蔵、半田市立博物館蔵
2	歴代はんだ山車まつり写真	8	半田市立博物館蔵
3	第1回はんだ山車まつりの様子	18	半田市立博物館蔵
4	山車・祭礼の写真パネル	20	明治後期～昭和初期／半田市立博物館蔵
5	壇箱彫刻(初代彫常)写真パネル	6	半田市立博物館蔵
6	壇箱彫刻(立川一門)写真パネル	4	半田市立博物館蔵
7	亀崎潮干祭の写真パネル	13	昭和23～34年／半田市立博物館蔵
8	持送り下絵「三ツ巴浮彫り」(成岩 北村成車)	1	初代彫常／半田市立博物館蔵
9	木鼻の獅子	6	彫清(野々垣清太郎)／半田市立博物館蔵
10	高欄周り彫刻(下半田 北組唐子車)	4	作者不明／下半田北組蔵
11	支輪「金地花柄蒔絵」(下半田 北組唐子車)	5	作者不明／下半田北組蔵
12	追幕下絵「龍上西王母図」(成岩 西馬場神車)	1	株式会社龍村美術織物／成岩西馬場蔵
13	水引幕下絵「群衛」(下半田 中組祝鳩車)	1	池上秀畝／下半田中組蔵
14	旧水引幕(下半田 中組祝鳩車)	1	下半田中組蔵
15	提灯(乙川 西山神楽車)	1	半田市立博物館蔵
16	前棚人形頭(下半田 南組護王車)	1	六代目 玉屋庄兵衛／下半田南組蔵
17	茶運び人形	1	七代目 玉屋庄兵衛／半田市立博物館蔵
18	市内31組の祭礼法被	31	半田市立博物館蔵

「第38回半田市立博物館 友の会合同展」

期 間：令和5年12月2日(土)～12月24日(日)

会 場：特別展示室（2階）、展示コーナー（1階）

入場者数：5,191人

展示内容：博物館友の会各部員の会員による作品を展示了。

展示点数：110点



展示資料一覧

部会名	主な作品	点 数
染色部会	ストール、タペストリー、トートバッグ、額、クッション、ショルダーバッグ、ランチョンマット、Tシャツ、袋、エコバッグ、小袋、リバーシブルベスト、チュニック、テーブルセンター など	37 点
はたおり部会	織り布、ポシェット、バッグ、ベスト、ストール、ガウチョパンツ、タペストリー、コート、敷物、ティッシュボックスカバー、ワイドパンツ、ショルダーバッグ、テーブルセンター、ボレロ、のれん、スカート、ブラウス、小物入れ、ズボン、スカーフ、帽子、ぬいぐるみ、がま口ポーチ、クッション、マルチカバー など	43 点
古文書部会	蜻蛉日記（宮内庁蔵）	1 点
古文書研究会	東照宮御遺訓集（鶴舞図書館蔵）	1 点
陶芸部会	ひな人形、茶香炉、クリスマスツリー、卓上水琴窟、四角花器(絵入り)、花器(絵入り)、鶴首花器、焼き締め花器、土瓶蒸し器、吻窯釉輪花鉢、抹茶碗(ヌ-ピ-絵)、マグカップ(キイ-絵)、赤楽抹茶碗、白萩釉抹茶碗、花器 など	15 点
歴史部会	令和5年度現地研修および室内研修資料	1 点
拓本部会	鈴木花菱句碑、仔羊、道元句、新美南吉、善光寺山頂、マンホール蓋、小林一茶句碑、道祖神、鶴と亀、芭蕉句、加古宗也句 など	12 点

館蔵品展「全国津々浦々！絵葉書展」

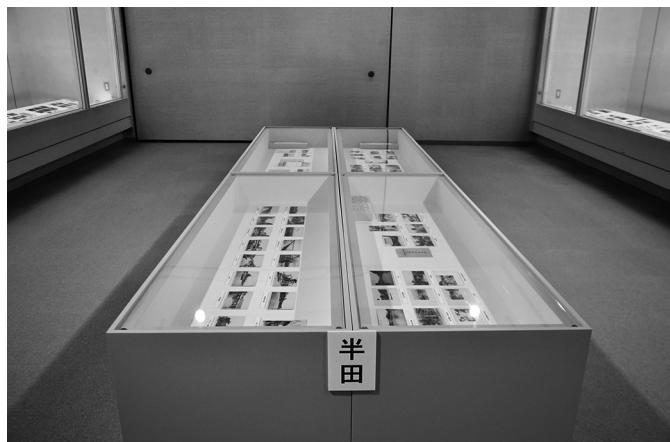
期 間：令和6年3月9日（土）～4月14日（日）

会 場：特別展示室（2階）、展示コーナー（1階）

入場者数：8,254人

展示内容：当館の収蔵資料の中から、日本各地の名所など
が題材となった絵葉書を展示了。

展示点数：310点



展示資料一覽

(2) その他の展示

タイトル	期 間	観覧者数	備 考
原爆と人間展	7月14日(金)～ 8月30日(水)	13,971人	主催:半田市(担当:総務課) 会場:1階 通路壁面
愛知やきものヒストリー 2023	7月15日(土)～ 9月10日(日)	16,285人	会場:1階 受付前
かぼちゃのおもさ当てクイズ	9月28日(木)～ 10月31日(土)	8,735人	会場:1階 受付前
知多中部広域少年消防クラブ防火作品展	11月9日(木)～ 11月23日(木)	3,578人	主催:知多中部広域事務組合 消防本部 会場:2階 特別展示室前
半田市・徐州市児童書画作品展	11月11日(土)～ 11月26日(日)	3,850人	主催:半田市(担当:秘書課) 会場:2階 特別展示室
第52回 半田さわやか教育展	1月13日(土)～ 1月21日(日)	3,733人	主催:半田市教育委員会 会場:1階 展示コーナー 2階 特別展示室
半田市小中学校書写展	1月24日(水)～ 2月1日(木)	2,830人	主催:半田市教育委員会 会場:1階 展示コーナー 2階 特別展示室
第39回 半田市中学校美術部展	2月3日(土)～ 2月8日(木)	1,283人	主催:半田市教育委員会 会場:1階 展示コーナー 2階 特別展示室
第39回 半田市造形教育展	2月10日(土)～ 2月21日(水)	4,799人	主催:半田市教育委員会 会場:1階 展示コーナー 2階 特別展示室
ミニ展示「ひなまつり展」	2月3日(土)～ 3月10日(日)	11,134人	会場:1階 受付前

(3) 山車展示

区 分	搬 入	組 上	搬 出
乙川浅井山宮本車	令和5年3月20日(月)	令和5年4月2日(日)	令和5年6月25日(日)
萩大山車 (阿久比町)	令和5年6月25日(日)	令和5年7月2日(日)	令和5年11月5日(日)
板山日役組神力車	令和5年11月5日(日)	令和5年11月12日(日)	令和6年3月17日(日)

5. 教育普及活動

(1) 博物館講座・講演会等

タイトル	日 程	講 師	人 数
知多工芸展講座 「風通織（風通絣織）の魅力」	5月7日（土）	小林 佐智子 (外部講師)	48人
からくり上演	6月18日（日）	乙川浅井山	120人
企画展関連イベント 「昔の道具を使ってみよう！」	7月29日（日）	博物館学芸員	30人
夜の図書館・博物館で怖～い話を聞く会	8月4日（金）	図書館・博物館 共催	39人
博物館講座 「化石を発掘しよう！～木の葉化石編～」	8月6日（日）	博物館学芸員	31人
博物館講座 「天然石できれいな万華鏡を作ろう！」	8月13日（日）	博物館学芸員	33人
博物館講座「和本を作ろう！」	9月30日（土）	博物館学芸員	12人
文化財よもやま話(全6回)	10/7(土)・8(日)、 10/14(土)	文化財専門委員	156人
博物館講座「クリスマスリースづくり」	12月3日（日）	寺西 愛弓 (外部講師)	8人
博物館講座「てんこく」	12月9日（土）	吉原 愛璃 (外部講師)	10人
やさしい古文書講座	12月16日（土）	博物館専門員	48人
博物館講座「華のしめ飾りづくり」	12月23日（土）	近藤 水名子 (外部講師)	11人
古文書講座「江戸時代の庄屋の仕事」	令和6年 1月21日（土）	博物館専門員	35人
博物館講座「はじめての苔テラリウム」	令和6年 2月11日（日祝）	博物館学芸員	26人
からくり人形および雛子の披露	令和6年 2月25日（日）	板山日役組	15人

(2) 観察及び見学

月 日	時 間	団体名等	人 数	場 所	解 説
5月 14日 (日)	10:00~10:40	五友会	11人	博物館	○
5月 17日 (水)	10:00~11:15	半田市立葵保育園	35人	博物館	
7月 8日 (土)	10:30~11:00	半田市企画部秘書課	5人	博物館	○
7月 22日 (土)	10:15~12:15	観光ガイド養成講座	10人	博物館	○
7月 26日 (水)	10:00~11:00	小牧市立一色小学校	3人	博物館	
8月 18日 (金)	11:30~12:00 14:45~15:15	半田を知る会 (市内小中学校初任者研修)	14人 17人	博物館	○
8月 19日 (土)	10:00~10:40	第9回はんだ山車まつり実行委員会公式インフルエンサー	10人	博物館	○
10月 5日 (木)	10:00~11:00	小牧市立一色小学校	87人	博物館	
11月 5日 (日)	10:00~11:20	熱田年金者組合	40人	博物館	○
11月 12日 (日)	10:20~11:20	江東地区自治会連合会	15人	博物館	
12月 13日 (水)	9:45~10:10	東海旅客鉄道株式会社 事業推進本部	10人	旧中埜家住宅	○
12月 14日 (木)	10:15~11:00	常滑市立三和小学校 特別支援学級	9人	博物館	
令和6年 1月 20日 (土)	10:30~11:10	鵜川原地区区長会	10人	博物館	○

(3) 半田市内小学校3年生の見学学習

小学校3年生を対象として、半田市の様子を紹介した番組の上映、展示室見学と昔の生活道具の学習を行っている。令和5年度は下記のとおり実施した。

年月日	学校名	学年	クラス数	人数
令和5年10月12日	雁宿小学校	3年生	3	78人
10月13日	半田小学校	3年生	2	58人
10月17日	宮池小学校	3年生	4	125人
10月18日	岩滑小学校	3年生	3	81人
10月19日	さくら小学校	3年生	1	36人
10月24日	成岩小学校	3年生	3	79人
10月25日	花園小学校	3年生	3	93人
11月21日	乙川東小学校	3年生	3	88人
11月22日	有脇小学校	3年生	1	18人
11月28日	板山小学校・分校	3年生	2	54人
11月29日	亀崎小学校	3年生	3	77人
11月30日	乙川小学校	3年生	3	99人
12月5日	横川小学校	3年生	3	87人
合計	13校		34クラス	973人

6. 資料の収集・整理・保存

(1) 資料寄贈

ア 美術品

受入日	種類	作品名	作 者	点 数
令和5年9月3日	工芸品	茶運び人形	七代 玉屋庄兵衛	1点
	工芸品	面かぶり	不明	1点
令和5年12月23日	絵画	絵画「かご（かご盛・夏）」	武藤 琴	1点

イ 一般資料

受入日	資料名	点 数
令和5年4月14日	半田市立図書館館内案内図ほか	17点
4月15日	半田第一尋常高等小学校 大正七年三月卒業 記念写真帳	1点
4月18日	岩橋家系譜一覧表ほか	5点
5月16日	アルバム	7点
6月18日	酒ラベル	56点
6月20日	蛇籠	1点
10月21日	絵葉書	55点
10月21日	漆器	4点
10月25日	小栗富次郎写真	4点
11月19日	写真（小栗商店名古屋支店、第2支店）	2点
12月10日	台秤、竿秤	2点
12月19日	絵葉書「半田八景」	1点
12月24日	拓本（鈴木花蓑句碑）	1点
12月24日	拓本（馬頭觀音）	1点
令和6年2月7日	時計	1点
2月28日	絵葉書	一式
3月8日	歴史寫真帖	1点

（2）収蔵資料点数（令和6年3月31日時点）

区分	数量	区分	数量
生活	6,866点	自然	175点
産業	4,935点	古文書	4,790点
民俗	1,412点	美術品	1,538点
考古	207点	歴史	1,685点
合計		21,605点	

7. 半田市立博物館友の会活動

半田市郷土資料館友の会（昭和 53 年設立）を前身として、昭和 59 年に設立された。半田市立博物館の活動に協力し、あわせて郷土の文化遺産を守り歴史・民俗・自然に関する知識を深め、会員相互の親睦をはかることを目的としている。その後、任意団体として独立しつつも、博物館事業への積極的な協力を目的の一つに掲げ、現在は、古文書、拓本、陶芸、はたおり、歴史、染色の 6 部会が活動している。

令和 5 年度実績（令和 5 年 8 月 1 日時点）

部会名	会員数	部会名	会員数	部会名	会員数
古文書部会	15 人	陶芸部会	5 人	歴史部会	21 人
拓本部会	7 人	はたおり部会	28 人	染色部会	24 人

8. 文化財保護事業

（1）文化財専門委員会

①設置目的

市内における文化財の調査及び保護活用に関して研究し、教育委員会の諮問に応じて意見を具申し、又は建議する。

②委員の構成（10 名）

学識経験者の中から教育委員会が委嘱する。委員の任期は 3 年。毎年、委員長 1 名、副委員長 1 名を選出し、委員長は委員会を代表し会議の議長となる。

（2）文化財の保護

①指定文化財の数（令和 6 年 3 月 31 日現在）

種類		国指定	県指定	市指定	計
有形文化財	建造物	2	0	6	8
	絵画	3	0	3	6
	彫刻	1	0	10	11
	工芸品	3	0	4	7
	書跡・典籍・古文書	2	0	9	11
民俗文化財	有形	1	1	6	8
	無形	1	2	6	9
記念物	史跡	0	1	2	3
	天然記念物	0	1	3	4
計		13	5	49	67

②指定文化財一覧

	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者又は管理者
国指定	建造物	旧中埜家住宅	1棟	昭和 51.2.3	天王町 1-30-2	半田市
	彫刻	木造阿弥陀如来立像	1躯	昭和 6.12.14	東郷町 2-41	常楽寺
	有形民俗	半田の酢醸造用具	323点	平成 28.3.2	桐ヶ丘 4-209-1	半田市
	無形民俗	亀崎潮干祭の山車行事	—	平成 18.3.15	亀崎町 2-92-1	亀崎潮干祭保存会
	建造物	小栗家住宅	12棟	令和 4.9.20	中村町 1-18	個人
県指定	有形民俗	亀崎潮干祭の山車	5輛	昭和 41.1.17	亀崎町 2-92-1	亀崎潮干祭保存会
	無形民俗	大獅子小獅子の舞	—	昭和 42.10.30	成岩本町 4-5	成岩第四区獅子保存会
	無形民俗	板山獅子舞	—	平成 9.10.17	神代町 1-61	板山獅子保存会
	史跡	大高山古窯	297 m ²	昭和 33.6.21	上池町 2-31	半田市
	天然記念物	摂取院のイブキ	1樹	昭和 56.2.23	前崎東町 44	摂取院
市指定	建造物	乙川八幡社本殿	1棟	昭和 58.4.1	乙川殿町 97	八幡社
	建造物	秋葉社本殿	1棟	昭和 58.4.1	亀崎町 4-80	秋葉社
	建造物	旧新美家住宅(新美南吉養家)	1軒	昭和 62.10.30	平和町 7-60	公益財団法人かみや美術館
	建造物	雲観寺鐘楼	1棟	平成 23.11.1	中村町 1-41	雲観寺
	建造物	一切経蔵、八角輪蔵	1棟	平成 23.11.1	中村町 1-41	雲観寺
	建造物	半田ハリストス正教会「聖イオアン・ダマスキン聖堂」	1棟	令和元.6.21	乙川西ノ宮町 3-33	半田ハリストス正教会
	絵画	血誓の阿弥陀如来絵像	2幅	昭和 41.3.31	亀崎町 3-51	浄顯寺
	絵画	絹本着色方便法身尊像	1幅	平成 23.11.1	中村町 1-41	雲観寺
	絵画	半田ハリストス正教会の聖障(イコностัส)	27枚	令和元.6.21	乙川西ノ宮町 3-33	半田ハリストス正教会
	彫刻	薬師如来座像	1躯	昭和 41.3.31	東郷町 2-86	西薬師教会
	彫刻	十一面觀世音菩薩立像	1躯	昭和 41.3.31	有楽町 2-34	鳳出觀音教会
	彫刻	多聞天立像	1躯	昭和 48.4.12	有楽町 2-34	鳳出觀音教会
	彫刻	地藏菩薩立像	1躯	昭和 48.4.12	有楽町 2-34	鳳出觀音教会
	彫刻	聖觀世音菩薩立像	1躯	昭和 48.4.12	東郷町 2-86	西薬師教会
	彫刻	大日如来座像	1躯	昭和 48.4.12	東郷町 2-86	西薬師教会
	彫刻	聖觀世音菩薩立像	1躯	昭和 58.7.1	東本町 2-16	光照院
	彫刻	阿弥陀如来立像	1躯	昭和 60.8.1	堀崎町 1-58	順正寺
	彫刻	木造薬師如来座像	1躯	昭和 61.2.1	成岩本町 2-5	北薬師教会
	彫刻	木造聖徳太子立像(南無仏二歳像)	1躯	平成 23.11.1	中村町 1-41	雲観寺
	工芸	陶製水瓶	1個	昭和 41.3.31	—	個人

市 指 定	工芸	三筋壺	2 個	昭和 44.5.22	桐ヶ丘 4-209-1	半田市
	工芸	巴文大甕	1 個	昭和 54.4.1	—	個人
	工芸	懸盤	1 脚	平成 23.11.1	中村町 1-41	雲觀寺
	古文書	乙川文書	935 点	昭和 53.4.1	桐ヶ丘 4-209-1	半田市
	古文書	西成岩文書	516 点	昭和 53.4.1	桐ヶ丘 4-209-1	半田市
	古文書	乙川八幡社祭礼絵図	1 卷	昭和 58.4.1	乙川殿町 97	八幡社
	古文書	絵像阿弥陀如来(大品)裏書	1 卷	昭和 60.8.1	堀崎町 1-58	順正寺
	典籍	乙川八幡社 社地絵図面	1 卷	昭和 58.4.1	乙川殿町 97	八幡社
	典籍	黄葉鉄眼版一切経	276 帚 2104 冊	平成 23.11.1	中村町 1-41	雲觀寺
	書跡	六字名号	1 幅	平成 23.11.1	中村町 1-41	雲觀寺
	書跡	九字名号	1 幅	平成 23.11.1	中村町 1-41	雲觀寺
	書跡	御文	1 卷	平成 23.11.1	中村町 1-41	雲觀寺
	有形民俗	向山神楽獅子の館	1 台	昭和 45.11.10	向山町 2-30	向山神楽獅子保存会
	有形民俗	半田山車まつり 市内 9 地区の山車	26 輛	昭和 54.5.4	市内 26 ヶ所山車蔵	半田山車祭り保存会
	有形民俗	乙川八幡社絵馬群	9 面	昭和 58.4.1	乙川殿町 97	八幡社
	有形民俗	中村組神輿	1 基	平成 15.4.1	東本町 2-23	業葉神社
	有形民俗	平地神明社の算額	1 面	平成 28.7.8	平地町 1-72	平地神明社奉賛会
	有形民俗	業葉神社の古面	1 面	平成 30.3.16	桐ヶ丘 4-209-1	業葉神社
	無形民俗	向山神楽獅子の神事	—	昭和 44.3.14	向山町 2-30	向山神楽獅子保存会
	無形民俗	ちんとろ祭の三番叟	—	昭和 54.7.28	宮路町 53	住吉ちんとろ祭委員会
	無形民俗	銭太鼓踊り	—	平成 13.6.1	成岩本町 4-5	成岩銭太鼓保存会
	無形民俗	板山万歳	—	平成 21.5.1	板山町 15-168	愛知・半田・板山万歳保存会
	無形民俗	下半田祭礼行事	—	平成 31 年 3.8	東本町 2-23	下半田祭礼保存会
	無形民俗	乙川祭礼行事	—	平成 31 年 3.8	乙川殿町 97	乙川祭礼保存会
	史跡	亀崎渡船場跡	—	昭和 54.4.1	亀崎町 2-234-1	神前神社
	史跡	大池古窯	3 基	平成 8.8.1	鵜ノ池町 33-1	半田市
	天然記念物	津島社のムクノキ	1 樹	昭和 52.10.1	住吉町 8-50	津島社天王講
	天然記念物	常福院のソテツ	1 株	昭和 53.4.1	岩滑中町 7-23	常福院
	天然記念物	萬三の白モッコウバラ	1 樹	平成 23.12.1	中村町 1-18	個人

※所有者に同意を得た文化財のみ記載しています。

③国登録有形文化財

種別	名称	員数	登録年月日	所在地	所有者・管理者
建造物	半田赤レンガ建物（旧カブトビル工場）	3棟	平成 16. 7. 23	榎下町8	半田市
建造物	愛知県立半田商業高等学校正門門柱 (旧愛知県知多郡立高等女学校正門)	1基	平成 29. 6. 28	白山町 2-30	愛知県
建造物	旧愛知県半田中学校武道場 (七中記念館)	1棟	令和 4. 6. 29	出口町 1-30	愛知県
建造物	旧伊東合資会社	3棟	令和 4. 10. 31	亀崎町 9-111 他	法人

（3）保存修理・保存施設整備補助事業

令和5年度は、次のとおり文化財所有者が行う保存修理等を支援し、文化財の保存継承を行った。

名 称	種 别	補助事業者	内 容
半田山車まつり 市内9地区の 山車 26 輛	有形民俗	協和砂子組白山車	防犯カメラ設置
		成岩東組旭車	山車蔵兼鞘修理
亀崎潮干祭の 山車行事	重要無形民俗 (国指定)	亀崎石橋組青龍車	山車蔵兼鞘修理

なお、令和5年度は、国の補助「地域文化財総合活用推進事業（地域活性化のための伝統行事等振興事業）」を活用できたため、次の文化財についても保存修理を行うことができた。

名 称	種 别	所有者・管理者	内 容
半田山車まつり 市内9地区 の山車 26 輹	有形民俗	成岩東組旭車	ゴマ新調
		乙川浅井山宮本車	三番叟人形・引幕修理
		下半田南組護王車	用具等修理（装束、破風板、妻台輪木口金具、堂山床板下面漆箔、彫刻）
		成岩西馬場神車	揖棒・綱の修理、ゴマ新調、法被（赤・黒）復元新調
向山神楽獅子の館	有形民俗	向山区神楽獅子保存会	油单復元新調

(4) 旧中埜家住宅保存管理事業・整備事業

令和5年度の主な公開等活用・整備事業は次のとおり。

イベント名・内容等	日程等	場所等
旧中埜家住宅で春の写真を撮ろう	令和5年3月23日（木）～5月7日（日）	旧中埜家住宅、博物館
新美南吉の童話作品イラストによる外観装飾	令和5年3月23日（木）～5月7日（日）	旧中埜家住宅
「子ども用ワークシート」配布	令和5年4月～	旧中埜家住宅、博物館、市ホームページ
旧中埜家住宅で組紐を体験しよう	令和5年5月12日（金）、13日（土）	旧中埜家住宅
初夏の旧中埜家住宅一般公開 －半六さんの別荘で音楽を楽しもう－	令和5年5月20日（土）、21日（日）、28日（日）	旧中埜家住宅
旧中埜家住宅ポストカードプレゼント	令和5年7月7日（金）～30日（日）	博物館
旧中埜家住宅＆半田市立博物館 あいたかったよ！だしまつり	令和5年9月30日（土）～10月31日（火）	旧中埜家住宅、博物館
旧中埜家住宅でミニ置き置をつくろう	令和5年10月22日（日）	旧中埜家住宅
第7回重要文化財旧中埜家住宅特別公開 －折り紙建築と水彩画で見る 歴史ある あいちのたてもん－	令和5年11月18日（土）、19日（日）	旧中埜家住宅
自由見学日	令和5年11月24日（金）、25日（土）	旧中埜家住宅
棟札複製製作	令和6年1月製作完了	—
一緒に♪楽しく♪旧中埜家住宅体験型写真館 －旧中埜家住宅をみんなの思い出の場所に育てよう－	令和6年1月13日（土）、14日（日）	旧中埜家住宅
客室洋風家具整備 (文化財保存継承基金活用)	令和6年3月整備完了	—
旧中埜家住宅・桐華学園 フレンチナッツステッヂでティーマットづくり	令和6年3月9日（土）	旧中埜家住宅
まちなかでアート 旧中埜家住宅でアートツアー（生涯学習課主催）	令和6年3月23日（土）	旧中埜家住宅

9. 来館者数の推移

年 度	来館者数（人）
平成 25 年度	97,766
平成 26 年度	96,647
平成 27 年度	87,520
平成 28 年度	90,400
平成 29 年度	104,913
平成 30 年度	95,961
平成 31・令和元年度（※）	89,128
令和 2 年度（※）	53,352
令和 3 年度	80,402
令和 4 年度	87,966
令和 5 年度	88,865

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和 2 年 3 月 4 日～5 月 31 日まで臨時休館。

安政6年のほぼ1年間の資料であるが、年間66件の訪問がある。月平均5～6回の頻度である。

鳴海方（鳴海陣屋役人）31回、御林方（御林奉行所）15回、御鷹方（御鷹奉行所）3回、寺社方（寺社奉行所）5回、御普請方（御普請奉行所）3回、地方御勘定所1回、柳原御役所1回、地方吟味役1回、役所不明6回の内容である。

藩から村の庄屋への指示は文書で出され、その返答は、文書もしくは、代官所や名古屋の奉行所に出向いて口頭で報告される。各御役人は、村に指示するため訪問するのではなく、各担当業務の執行が目的であったと思われる。

ちなみに、下用の内訳にも、庄屋組頭は年に名古屋表に125回、鳴海表に153回、横須賀表に22回呼び出され、あるいは願い達しのため出張している。

様々な役所の御役人が村に宿泊を求め、昼食を求め、荷物や文書の継立（搬送）を求めてくるのであった。

村は、宿泊は一日一人銀2匁、昼食一人一銀2匁と定めて出費していた様子がわかる。継立は、荷物の量、行先の遠近、人足の数により、計算していたと思われる。

諸役人は、基本的には、継立費は負担しないと決めていたと思われ、宿泊（休泊）昼食代は心付程度は負担する考えであつたと思われる。負担比率は、1年間平均20・1%であるが、負担比率の中心値は27%であり、負担比率は0%（払わない）から65%とバラついている。それらの実態から、藩の負担基準が無く、それぞれの御役人の心づもりで負担していたと思われる。

この接遇の費用は、各御役人の負担金を控除した後、年に六両一分ト銀十三匁四分二厘であり、全下用に占める割合は1・1%となつている。接遇の件数は多いが、費用としは問題になるほどの大きさではなかつたと思われる。

参考文献

金銀交換比率、銀銭交換比率について：

「財布でひも解く江戸あんない」 いづみ朔庵著 株式会社誠文堂新光社 2016年6月20日発行

	25	御林方	2		銀二匁		七十六文
	26	鳴海方	2	銀六匁		銀五分	百八十六文
	27	御普請奉行	4			銀三匁八分五厘	
6	14	鳴海方	1	銀三匁		銀三分五厘	六十一文
	17	鳴海方	1	銀三匁		銀四分四厘	九十一文
	18	鳴海方	1			銀四分四厘	
	19	鳴海方	3			銀一匁七分四厘	
	27	寺社方	2		銀二匁	銀八分八厘	
7	26	御林方	1	銀二匁			七十文
8	1	鳴海方	10	金二分		銀三匁五分	一貫九十文
	3	鳴海方	1		銀一匁	銀三分五厘	三十文
	6	柳原御役所	2	銀二匁		銀一匁三分二厘	
	18	鳴海方	1	銀二匁		銀四分四厘	八十七文
	23	鳴海方	2	銀二匁		銀五分	六十文
	25	御林方	3	銀十二匁			三百六十文
	26	寺社方	2	銀四匁			百三十四文
9	1	地方吟味役	3		銀三匁	銀一匁三分四厘	百十八文
	1	寺社方	2	銀四匁		銀一匁三分二厘	
	3	鳴海方	1			銀四分四厘	
	15	鳴海方	2			銀八分八厘	
	22	鳴海方	1	銀三匁		銀二分五厘	九十一文
	22	鳴海方	8			銀四匁二分	
	25	鳴海方	10	金一分十銀五匁			八百八文
	29	鳴海方	2			銀八分八厘	
10	5		2			銀七分	
	8	鳴海方	1			銀三分五厘	
	9	鳴海方	1	銀二匁		銀四分四厘	六十一文
	10	御林方	1	銀二匁			六十一文
11	1		1			銀四匁四分	
	5	御林方	1	銀二匁			六十一文
	9	御林方	1	銀三匁			九十文
12	2	御普請方	1	金二分十銀三匁			一貫四百二十文
	6	御普請方	1	金一分十銀六匁		銀一匁三分二厘	九百四文

月	日	役所	人数	休泊代	昼食代	継立人足代	役人負担金
12	5	鳴海方	2		銀二匁	銀一匁一分六厘	五十八文
	7	鳴海方	2	金一分ト銀五匁		銀五分	四百二十六文
	9	御林方	3	銀九匁			
1	11		2		銀二匁	銀七分	六十四文
	13	鳴海方	2			銀八分八厘	
	21	鳴海方	2	銀十二匁		銀一匁七分六厘	二百六十八文
2	4	御林方	2	銀四匁			百四十四文
	5	御鷹方	2	銀四匁		銀八分八厘	百二十文
	16	鳴海方	1	銀四匁		銀五分八厘	八十八文
	23		2			銀八分八厘	
	26	御林方	3	銀九匁			二百六十五文
3	2		2	銀十四匁		銀八分八厘	
	4	寺社方	2		銀二匁	銀八分八厘	五十八文
	6	鳴海方	1	銀三匁		銀四分四厘	九十一文
	12	鳴海方	2		銀二匁	銀七分	六十二文
	17	御林方	2	銀六匁			百七十八文
	17	御林方	2	金二分ト銀二匁		銀五分	四百八十文
	18	鳴海方	2		銀二匁	銀七分	六十二文
	18	御林方	2	銀二匁			百四十五文
	22	鳴海方	2			銀五分	
	22	御林奉行	6		銀六匁	銀三匁八厘	百六十二文
	23	御林方	2	銀四匁			百十文
	29	御鷹方	4		銀四匁	銀一匁七分六厘	
	29	寺社方	2	金一分ト銀十三匁		銀八分八厘	八百八十二文
4	2	御鷹方	4		銀四匁		
	5	鳴海方	2	金一分ト銀三匁		銀八分八厘	
	5	地方御勘定所	3	銀六匁		銀七分五厘	二百五十七文
	9		4			銀二匁三分二厘	
	10	鳴海方	2	銀十二匁		銀七分	二百五十二文
	14	御林方	2	銀六匁			
	24	鳴海方	10		銀九匁	銀三匁一分五厘	三百六十三文
5	16	鳴海方	2			銀八分八厘	
	17	鳴海方	2	銀四匁		銀八分八厘	百六十六文

下用は、諸役人の要望に応じる接遇費（接遇費）、年貢に係わる経費（税金費）、村政の事務費（事務費）、村役人への給与等の人事費（人事費）、神社仏閣の修繕や祭礼に係わる費用（神仏祭礼費）、雨池を利用するための地代（地代）、普請に係わる費（普請費）、猪の害を防ぐための火縄銃の費用（防災費）に分類することができます。

その構成比は、接遇費1.1%、税金費5.2%、事務費17.1%、人事費35.3%、神仏祭礼費8.0%、地代3.7%、普請費28.6%、防災費1.0%の構成比となっている。

他の文書について具体的には記載しないが、3点ともほぼ同じ傾向を示している。ただ、文久二年については、皇女和宮の下向に伴う人足の派遣で800両ほど使っているので、その分は構成比が異なっている。

人件費、普請費、事務費が大勢を占めているが、人件費では、村役人（庄屋組頭、頭白署）以外に村役人を補佐する定使と言われる人々への給金、池・川・松の監視をする人の給金、威鉄砲を使う人への給金などさまざまな人件費が必要であったことが分かる。

文献にはまったく表に出ない「定使」（「じょうつかい」と読む？）即ち、庄屋組頭を補佐し、文書作成、文書伝達、その他の補佐業務を勤める人がいたこと、威嚇鉄砲を所持し、御林方の業務中の警固を勤め、猪を葬る役の人が17人いたこと、雨池や水の監視係の担当者が23人いたことがわかる。庄屋組頭だけでは、こうした重要な仕事を全部こなせなかつたのである。

普請費は、大きな工事は藩の費用で実施するため、藩からの費用支払いを一旦村で受け、費用を仕訳けしていると思われる。

事務費は、庄屋組頭は年に290回もの代官所や名古屋の奉行所への出張をしており、年に36両もの出張費を掛けていることがわかる。神社仏閣の修繕費や祭礼費を村が負担している」とも分かる。年貢や小物成は、その額を負担すればよいのではなく、年貢の運賃負担、年貢を納めるための人足費が必要であったことがわかる。

下用書上帳によつて、かくして様々な村の経営の実態が分かる。

その3 最後に、諸役人接遇の内容を分析する。

村中安全(社寺代参)	神仏費	四両	
諸奉加	神仏費	五両二分	五匁三分
熱田三頭人江遣	神仏費		六匁
氏神五ヶ所村扣堂社造作入用	神仏費	十一両一分	四匁八分
宗門江遣	神仏費	三分	三匁七分五厘
氏神五ヶ所神事祭礼之節御神酒御備米代	祭礼費	九両三分	五分五厘
虫送り入用	祭礼費	十八両二分	五匁七分
	神仏祭礼費	四十六両一分	六分
雨池敷地弁米代	地代	二十一両一分	六匁七分
	地代	二十一両一分	六匁七分
粕釜川役	普請費	一両一分	八匁七分七厘
杭木代	普請費	三十五両	十一匁六分
板橋小杣油樽瓶杭木代共	普請費	十三両一分	九匁五分
大工扶持作料金物代共	普請費	六両	八匁八分
明俵代×	普請費	十五両二分	六匁
小竹代	普請費	五両三分	八匁四分
小繩代	普請費	十一両三分	七匁五分
村方家別仕托之外年中所々人足代	普請費	六十六両	六匁
雨池棚入用	普請費	九両二分	十四匁八分
	普請費	百六十三両一分	12匁六分
煙硝火縄代	防災費	五両三分	五匁一分
	防災費	五両三分	五匁一分
合 計		五百八十一両二分	十一匁六分四厘

その2 次に、下用の構成の検討をする（表中の分類は、筆者の判断）。

下用(村政費)の構成		金額	
項目	分類	金	銀
諸役人御休泊御入用人足代共	接遇費	六両一分	十三匁四分二厘
		六両一分	十三匁四分二厘
御役竹代	小物成	三分	三匁三分
細運上	小物成		三匁
御年貢米所々出し人足	年貢費	四両一分	十一匁
御年貢運賃代	年貢費	二十四両二分	一匁七分
	税金費	二十九両三分	四匁
庄屋組頭諸願達	事務費	三十六両二分	十匁
紙墨筆代	事務費	二十二両三分	六匁五分
根出御札縄代	事務費	七両三分	八匁九分二厘
提灯張替蠟燭代	事務費	十一両一分	十一匁五分
諸上納物判錢代	事務費	一分	五匁
宗門帳箱代	事務費	一分	三匁五分九厘
年中村役人頭百姓諸勘定立会入用	事務費	十九両	十匁三分
	事務費	九十八両二分	十匁八分一厘
庄屋組頭定使二十五人分給米費	人件費	百三十二両一分	一分一厘
威鉄砲給米代御林見廻給米代	人件費	二十六両	
所々雨池見廻給水掛給米代共	人件費	二十九両	
年中御觸状持届人足代	人件費	七両三分	九匁五分三厘
船江三ヶ所浚人足代	人件費	八両三分	
	人件費	二百三両三分	九匁六分四厘

米五斗	源藏
米一斗	惣右衛門
米一斗五升	善六
米二斗五升	傳左衛門
米一斗	喜三郎
米一石二斗八升	兵七
米十五石三斗七升	
去巴年	
金十三兩ト	
銀八匁二分九厘 増	
金五百八十匁三分	
銀十三匁三分七厘	
高三千四百九十一石七斗八升	
但高百石二付	
金十六兩三分 銀七匁八分六厘八七	
右之通相違無御座候以上	
右村庄屋 市郎左衛門	
山口三郎 印	
同 橋藏 印	
同 儀兵衛 印	
同 庄三郎 印	
同 庄兵衛 印	
組庄屋 三郎平	
組頭	
同 清石衛門	
源藏 孫右衛門	

鳴海

御陣屋

同 又四郎	同 惣兵衛	同 文四郎	同 孫次郎	同 傳兵衛	同 治兵衛	同 治兵衛	同 傳右衛門	同 伊左衛門	同 太右衛門	同 清兵衛	同 清兵衛	同 善四郎	同 甚右衛門	同 百姓	
印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	安右衛門	安右衛門	安右衛門	安右衛門

米一石八斗	同治兵衛
米二石五斗	同伊左衛門
米一石二斗五升	同甚右衛門
米五斗	同善四郎
米三石四斗四升五合	安右衛門
米三石三斗五升	源藏
米一石六斗	同秀助
米一石六斗	源七
米一石七斗八升	同惣七
米五斗	同松蔵
米五斗	同和兵衛
米三斗五升	同市左衛門
米三斗五升	善八
米一斗五升	威鉄砲給米代
米一斗五升	御林見廻り給米代
米三石也	惣助
米三石也	丈助
米三石也	亦兵衛
久助	惣助
久助	傳左衛門
弥三右衛門	亦兵衛
半左衛門	惣助
六左衛門	惣助
善兵衛	惣助
五郎右衛門	惣助
文右衛門	惣助
作蔵	惣助

六左衛門 九八 安右衛門
四郎左衛門 兵七 所々雨池見廻給
水掛給米代共
喜左衛門 源次郎 同人 林蔵 作蔵 清蔵 甚右衛門 久左衛門 仲右衛門 太助 和七 治郎七 孫平 源七 嘉右衛門 孫平 長七 治右衛門

銀五匁

一金一分ト

銀三匁五分九厘

一金十九匁ト

銀十匁三分

一金十一匁一分

銀四匁八分

一金九匁三分ト

銀五分五厘

一金三十五匁ト

銀十一匁六分

一金十八匁一分

銀五匁七分

一金十三匁一分ト

銀九匁五分

一金六匁二分

銀八匁八分

一金十五匁一分

銀六匁

一金五匁三分

銀八匁四分

一金十一匁三分

銀七匁五分

一金二十四匁一分ト

銀一匁七分

一金六十六匁ト

宗門帳箱代

一銀三匁

一金三分ト

銀三匁七分五厘

一金九匁二分

銀十四匁八分

一金百三十二匁一分

銀一分一厘

米七石三斗

右内訳

米八石五升三合五夕

米四石八斗

米四石八斗

米四石一斗

米二石五斗

米二石三斗四升五合

米二石三斗四升五合

米二石三斗四升五合

米二石六斗五升

米二石六斗五升

米一石六斗五升

米一石六斗五升

米一石六斗五升

米一石六斗五升

米一石六斗五升

米一石六斗五升

米一石六斗五升

村方家別仕托之外

年中所々人足代
細運上

宗門江遣

雨池棚入用

年中所々人足代
細運上

庄屋組頭定使二十五人分給米代

内	一貫四百二十文御払 十一月六日5十三日晩迄御休泊	御普請方
内	一金一分ト銀六匁	佐次弥三右衛門様
同日	九百四文御払	御同人様御繼立
内	一銀一匁三分二厘	乙川村迄
	人足三人	
内	八匁ト	
	銀六匁三分九厘	
	錢十一貫百三十文御払	
	此金一両二分ト 銀七匁九分七厘	
	引八匁六両一分ト 銀十三匁四分二厘	
内	金五両一分ト 銀七匁三分	御休泊代
	金一両ト 銀六匁三分九厘	人足代
内	金三十六両一分	庄屋組頭諸願達
	銀十匁	御召出等ニ而名古屋
	鳴海横須賀江寵出候年中入用	
内	金二十五両也	名古屋表江 百二十五度
内	金拾両ト	
	銀十二匁	
	鳴海表江 百五十三度	
	金一両一分ト	
	銀十三匁	
横須賀表江	横須賀表江 二十二度	

一金四両一分ト 銀十一匁	御年貢米 千三百五十石取扱
一金二十二両三分 銀六匁五分	所々出し人足代 年中入用
一金三分 銀三匁三分	紙墨筆代 御役竹代
一金四両也 銀三匁三分	村中為安全 秋葉山江代参
一金四両也 銀三匁三分	津嶋御立符 正五九月御日待
一金四両也 銀三匁三分	いせ御油料 煙硝火繩代
一金七両三分 銀五匁一分	年中御觸状 持届人足代
一金八両三分 銀九匁五分三厘	船江三ヶ所浚人足代
一金八両三分 銀九匁五分三厘	雨池敷地弁米代
一金二十一両一分 銀六匁七分	
一金七両三分 銀八匁九分二厘	根出御札繩代
一金十一両一分 銀十一匁五分	提灯張替 蜻燭代
一金五両二分 銀五匁三分	諸奉加
一金六匁 銀五匁三分	庄組江遣ス
一金一分ト	熱田三頭人江遣
一金一分ト	諸上納物判錢代

同二十五日御泊	鳴海御代官
一金一分ト 銀五匁	吉田助次郎様 内 八百八文御拏
同二十六日	山田十之丞様 鳴海方御手代 神谷市左衛門様
一銀三匁	同 鈴木芳郎様 同 加藤陣吾様 同 青山祐四郎様 同 青山市五郎様
同二十九日	御小人押 松原八左衛門様 御仲間二人 半田村迄 人足十二人
一銀八分八厘	御同人様御繼立 水谷龍八様（鳴海方） 伊藤又十郎様 岩滑村迄 人足二人
十月五日	中村弥平次様 長尾村迄 人足二人 鳴海方 長尾村迄
一銀七分	山崎弥左衛門様 中村弥平次様 御繼立
同八日	吉川吉兵衛様 御繼立
一銀三分五厘	
十月十日	六十一文御拏 内 一銀四分四厘
十一月朔日	同日御泊 内 一銀二匁
同五日御泊	六十一文御拏 内 一銀四匁四分
同九日御泊昼	伊藤儀六様 御繼立 大足村迄 人足十人
一銀三匁 内 九十文御拏	御林方 神谷新蔵様 中井清四郎様
十二月二日 <small>5十三日</small> 昏迄御休泊 一金一分ト銀三匁	御普請方 伊藤清五郎様

一銀五分	半田村迄 人足二人	八月二十五日 一十六日辰迄御休泊 御林方
一銀十二匁	内 三百六十文御払	中井清四郎様 神谷邑之助様
同二十六日御泊	富田鋼太郎様	
一銀四匁	内 百三十四文御払	飯尾鉄藏様 蜷川源六様
九月朔日御辰支度	（寺社方）	地方吟味役
一銀三匁	朝田小太郎様 小沢加八郎様	同日 御仲間一名 御同人様御繼立
一銀一匁三分四厘	大足村迄 人足三人	寺社方 山川松太郎様 前田半左衛門様
同日御泊		
一銀四匁		
九月二日		
一銀一匁二分二厘		
同三日	富貴村迄 人足二人	御同人様御繼立 （鳴海方）
一銀四分四厘	神谷市左衛門様 前田半左衛門様	
同十五日		
水谷龍八様 （鳴海方）		

一銀五分	吉川吉兵衛様 半田村迄 人足二人	九月十八日 一銀八分八厘
鳴海方	岡村武三郎様 加藤陣吾様 御繼立	
大足村迄 人足一人	鳴海方	同二十二日辰御泊
水谷龍八様	水谷龍八様	一銀三匁
（鳴海方）	（鳴海方）	内 九十一文御払
同日 一銀二分五厘	御同人様御繼立 半田村迄 人足一人	同日 一銀四匁二分
九月二十二日	吉田助次郎様 山田十之丞様	
一銀四匁二分	鴨海御代官 神谷市左衛門様 鈴木芳郎様	
同日 一銀四匁二分五厘	青山祐四郎様 加藤陣吾様 松原八左衛門様 御繼立	
九月二十二日	青山市五郎様 加藤陣吾様 松原八左衛門様 御繼立	
一銀四匁二分五厘	長尾村迄 人足十二人	

同日	内	六十文御払	同二十三日御昼支度 一銀二匁	八月三日御昼支度 一銀二匁	大足村迄 角田大蔵様
同日	内	六十文御払	同二十三日御昼支度 一銀二匁	三十文御払	伊藤又十郎様 吉川吉兵衛様 吉崎村迄 人足三人 寺社方
同日	内	七十文御払	七月二十九日御泊八月朔日御昼 一貫目九十文御払	木村忠右衛門様 蜷川源六様 大足村迄 人足二人 御林方 神谷新蔵様	一銀三分五厘 同日 一銀八分八厘 一銀二匁
同日	内	七十文御払	鳴海御代官 吉田助次郎様 腹戸良右衛門様 藤井友吉様 神谷市左衛門様 鈴木三郎助様 岡本慶右衛門様 加藤陣吾様 岡村武三郎様 御仲間二人	同日 一銀一匁三分二厘 同十八日御泊 一銀二匁	同日 一銀一匁三分二厘 同十八日御泊 一銀二匁
同日	内	八十文御払	八十七文御払	同日 一銀四分四厘 同日 一銀二匁	同日 一銀四分四厘 同日 一貫目九十文御払

鳴海方 長尾村迄 人足十人
吉川吉兵衛様

御同人様御繼立 長尾村迄 人足一人
柳原

松山三藏様 高木逸作様 御同人様御繼立 河和村迄 人足二人
鳴海方 岡本慶右衛門様

御同人様御繼立 大足村迄 人足一人
鳴海方 吉川吉兵衛様 角田大蔵様

御同人様御繼立

三百六十三文御払

森田七右衛門様
神谷市左衛門様

青山祐四郎様
鈴木三郎助様

水谷萬助様
御仲間二人

御同人様御繼立
長尾村迄

人足九人
伊藤又十郎様
吉川吉兵衛様御繼立

御同人様御繼立
人足二人

大足村迄
人足二人

鳴海方
伊藤又十郎様
吉川吉兵衛様

伊藤又十郎様
(注鳴海方)

大足村迄
人足二人

鳴海方
伊藤又十郎様
吉川吉兵衛様

内

一銀六匁

同二十六日御昼泊

七十六文御払

一銀二匁

一銀二匁

五月二十五日御昼支度

百六十六文御払

一銀八分八厘

一銀四匁

内

百六十六文御払

一銀四匁

一銀三匁

五月十四日御泊

一銀三匁一分五厘

五月十六日

一銀八分八厘

五月二十四日

一銀三匁一分五厘

同日

一銀五分

同日

一銀三分五厘

同日

一銀五分

同日

五百八十六文御払

百八十六文御払

御同人様御繼立

半田村迄

人足一人

御普請奉行

水野藤兵衛様

佐次弥三右衛門様

源谷彦太郎様

岡部与次平様

御繼立

鳴海方

角田大蔵様

長尾村迄

人足十一人

鳴海方

同人様御繼立

長尾村迄

人足一人

鳴海方

吉川吉兵衛様

吉川吉兵衛様

吉川吉兵衛様

吉川吉兵衛様

吉川吉兵衛様

伊藤又十郎様御繼立

大足村迄

人足一人

同二十九日	中村弥助様 幸嶋才次郎様	同五日御泊	地方御勘定所
一銀一匁七分六厘	御同人様御繼立	一銀六匁	大宮八太郎様
同二十九日5四月五日迄御休泊	大足村迄	二百五十七文御払	小田木代八様
一金一分ト	人足四人	同日	神谷左十郎様
内	寺社方	一銀七分五厘	御同人様繼立
銀十三匁	嶋田作右衛門様	一銀二匁三分二厘	半田村迄
八百八十二文御払	土方越三郎様	同九日	人足三人
一銀八分八厘	岩滑村迄	一銀二匁三分二厘	森清兵衛様
四月一日御昼支度	御同人様御繼立	同九日	森田伊兵衛様
一銀四匁	佐藤七郎様	一銀二匁三分二厘	片桐忠藏様
人足二人	幸嶋仁三郎様	同九日	高松定次郎様
御鷹方	中村弥助様	一銀二匁三分二厘	鳴海方
岩滑村迄	幸嶋才次郎様	同九日	水谷龍八様
御同人様繼立	御同人様繼立	同日	角田大蔵様
乙川村迄	乙川村迄	一銀七分	御同人様御繼立
人足三人	人足三人	同日	長尾村迄
鳴海方	鳴海方	同十四日5十五日迄御休泊	御林方
伊藤又十郎様	伊藤又十郎様	一銀六匁	富田司馬太郎様
吉川吉兵衛様	吉川吉兵衛様	同十四日5十五日迄御休泊	神谷邑之助様
御同人様御繼立	御同人様御繼立	一銀九匁	鳴海御代官
乙川村迄	乙川村迄	同二十四日御昼支度	吉田助次郎様
人足二人	人足二人	内	吉田作郎吉様
銀八分八厘	銀三匁	内	内
同四月五日迄八日朝迄御休泊	同四月五日迄八日朝迄御休泊	内	内
一金一分ト	一金一分ト	内	内
銀三匁	銀三匁	内	内

同日	二百六十八文御払	御同人様御繼立
	一銀一匁七分六厘	常滑村迄
	二月四日御泊	人足二人
	一銀四匁	御林方
	内	
	百四十四文御払	神合新蔵様
	一銀四匁	濱嶋周平様
	二月五日御泊	御鷹方
	百三十二文御払	岩塙茂平様
	一銀八分八厘	篠田宗六様
	内	
	同十六日昼5十七日迄御休泊	御同人様御繼立
	一銀四匁	乙川村迄
	一銀四匁	鳴海方
同日	八十八文御払	鈴木甚平様
	内	
	御同人様御繼立	人足二人
	一銀五分八厘	龜崎村迄
	同日	永田太助様
	同二十三日	加藤弥右衛門様御繼立
	一銀八分八厘	乙川村迄
	人足二人	
同二十六日夕より二十七日昼迄御休泊	御林方	

同日	中井清四郎様	富田司馬太郎様
	一銀九匁	内
	二百六十五文御払	神谷邑之助様
	三月二日5四日迄御休泊	三ツ橋作十郎様
	一銀十四匁	高木逸作様
同日	一銀八分八厘	御同人様御繼立
	内	乙川村迄
	同四日御昼支度	人足二人
	一銀三匁	寺社方
	内	
	五百八文御払	土方吉六様
	一銀八分八厘	山羽忠助様
同日	同六日昼5七日朝迄御休泊	御同人様御繼立
	一銀三匁	乙川村迄
	内	
	九十一文御払	鳴海方
	内	
	御同人様御繼立	人足二人
	一銀四分四厘	吉川吉兵衛様
同日	三月十一日御昼支度	鳴海方
	内	
	御同人様御繼立	人足一人
	一銀二匁	水野龍八様
	内	
	六十二文御払	角田大蔵様
同日	御同人様御繼立	

村の下用費の実態と諸役人接遇の実態

半田市立博物館専門員 柴田 邦彦

半田市立博物館には、江戸・明治期の古文書が一万五千点ほど保存されている。

その中で、成岩文書と定義される一群の古文書は306点あるが、その中に、下用即ち村政費に関わる文書が4点ある。

- ・成岩文書資料 No. 54 知多郡成岩村下用書上帳 文久二年
- ・成岩文書資料 No. 55 知多郡成岩村下用書上帳 安政三年
- ・成岩文書資料 No. 56 知多郡成岩村下用書上帳 安政五年
- ・成岩文書資料 No. 57 知多郡成岩村下用書上帳 安政六年

これらを分析して、村の下用の実態と諸役人接遇の実態を検討した。

その1 まず、損傷が少ない資料 No. 57について、全文の翻刻を挙げる。

紀

要

「村の下用費の実態と諸役人接遇の実態」

目

次

半田市立博物館専門員

柴田邦彦

2

半田市立博物館 年報・紀要

令和5年度

発行日 令和7年3月

編集発行 半田市立博物館

半田市桐ヶ丘 4-209-1

印 刷 半田中央印刷株式会社

